

# 絆

赤井むつみ後援会便り第53号

笑顔あふれる温かい町に！

2021年 9月 発行



## 決算委員会終了！

一般会計 収入（歳入）	216億5,311万円（昨年は、171億5,411万円）
支出（歳出）	211億5,142万円（昨年は、168億7,060万円）
貯金（基金）	86億5,437万円（昨年は、88億604万円）
借金（町債）	141億5,706万円（昨年は、129億7,700万円）

昨年に比べ収入と支出の金額は上がり、5億169万円の黒字となりましたが、予算に比べて決算の収入が少ないことは気になることです。コロナのため全国的にも景気は悪く、町税も減っていきませんが、何もしなければ大きな支出もないかわり、収入も期待できません。事業の選択と組み立てがだんだん難しくなってきますね。そんな中でも、2020年度は約86億円（2021年3月31日現在）の貯金ことができました。

前年度は給食センターや熊石保育園の建設、落部小学校の大規模改修、研修牧場整備事業などの大型事業も多く行われたため、その返済が同じ時期となると、今後の対応を計画的に行わなければ、近い将来に負担をかけることとなります。監査委員さんの意見書にも書かれていましたが、事業の重要度や優先度を考えて、持続可能な財政運営を目指すことが大切になります。



### 決算から見たもの

緊急事態宣言や蔓延防止措置などが出されたことで、2020年度の事業は中止となったものが目立ちました。もちろん、町民の命と健康を守るためには仕方のないことですが、今後必ずしもコロナが終息するとは限らないので、コロナ禍でもできる内容・方法を検討し、少しでも事業の実施と充実が図られるように、みんなで考える必要があると痛感しました。

八雲町の財政は、今のところ逼迫した状況にはありませんが、人口が少なくなっていき、地方交付税も減って行くことで、今後の収入はなかなか予想が付きません。でも、返済しなければならないお金は、時期が来ると必ず返済しなければならないので、支出ははっきりとわかります。

今後、少ない収入で町民サービスも借金の返済も、すべて賄うのが困難になることがないように、今のうちに知恵を出し合うことが必要です。大きな金額にならなくても、日ごろからゴミの分別を細かく行ったり、無駄なものは買わないことで、ゴミ処理の負担を少しでも減らすことや、買い物はなるべく町内で行う、各自健康を意識して生活することなど、小さいけれど自分達でできることもたくさんあります。是非、節約できることは大いに取り組み、子どもや孫の世代において負の遺産とならないように、みんなで意識して取り組みたいですね！

以前に八雲町では、町民のアイデアをまちづくりに生かすため『チャレンジ基金』を行っていましたが、残念ながら財政的なこともあり消滅しました。毎年ふるさと応援寄付金が20億円を超えているので、その1%を活用して『チャレンジ基金』の復活をしませんか？

**答** 『必要だと思うが、仕組み作りを十分検討！』

以前は基金積立金から生じる預金利息収入が活用されていたが、低金利時代に突入したため、大半を一般会計からの持ち出しとなった。その上、助成金が企業や個人の経営規模の拡大や利益に充てるなど、当初の目的・趣旨から逸脱しているとの批判が多く寄せられた。この間67件の申請に対し、採択事業は38件で、約5,300万円が活用された。

自分もチャレンジ基金は必要だと思っている。ただ、お金を出すときの仕組みをしっかりと考えて、なるべく長く持続でき、非難の声が少ないように、そして、町民が利用しながら産業の活性化や八雲町の活性化につながっていくと良いと思っている。

問2 『町長の熱い思いの進捗状況と今後は？』

昨年、町長より八雲町をより豊かにするための構想として、ウィスキー工場、ワイン工場、牛乳工場、熊石奥尻間のフェリーのお話を聞きしましたが、現状ではどこまで調査が進み、どこまで実現の可能性があるのか。そして、総合計画の中間見直しを見据えて、協働のまちづくりの推進を含め、今後どのような点に力を入れていくのかをお伺いします。

**答** 『負の遺産は作らず、持続可能な八雲町を目指す』

ウィスキー蒸留所については、事業連携を予定している小学館集英社プロダクションがコロナの感染状況を見ながら、八雲町を訪れ候補地を選定する予定。決定後は、蒸留所整備に向けた様々な調査・検討し、その結果をもとに事業化の可否について、小学館と協議していく。

ワイン工場については、H30年から醸造用ブドウの試験栽培を実施し、3年後に行われる収穫に手ごたえを感じることができれば、ワイン工場建設に向け、検討に入っていく。

牛乳工場については、新幹線で牛乳を運ぶという構想もあるということと、雇用を考えると本格的な大きな工場が望ましい。難しい場合は、乳製品を作れるようなサテライトの第2工場など、各関係機関、酪農家の方たちと意見交換しながら進めたい。

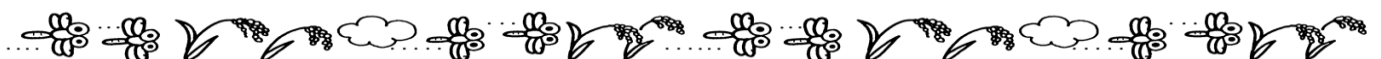
フェリーに関しては、北海道新幹線の延伸を見据え、渡島・桧山の一体的な観光の構築と、サーモン養殖による産業の連携などを目指した広大なプロジェクト。しかし、多額な費用と法の規制など多くの課題があり、各機関と連携・議論を深め、あらゆる可能性を探っていきたい。

コロナが収束しない限り厳しい経済状況が予想されるが、歩みを緩めることなく、八雲町のブランド力の向上とともに熊石・八雲地域への企業誘致と横断的な経済の活性化を図り、人材育成と未来を担う子ども達に負担を強いることのない持続可能な八雲町を目指すため、様々な施策を講じる。

**再質問**

町長がやりたいことをどんどん進めるのは当たり前ですが、本当に子ども達の将来、八雲町の将来を考えて、儲けばかりではなく、町民が心豊かに過ごせるまちを目指してほしい。そうでないときは、このような場に臨めるチャンスがあったときは全力で止めに入ります。

**答** 医療や福祉等々においても近隣町と連携をしながら、しっかりと取り組んでいく。そして若い世代に負の遺産を残さないのはもちろん、これからも町民・議員の皆さんと話し合いながら、八雲町の将来を見据えて取り組んでいく。



### 第3回定例会より(主なもの)

- ☆10月1日から、八雲・熊石間でデマンドバス（利用者は乗車時間の予約を行う）が運行されます。
- ☆サーモン養殖に対し、道から740万円の交付金が出ました。「道としてもサーモン養殖には期待しているので、今後、奥尻や松山漁協、近隣町とも協議会を立ち上げて、盛り上げていく予定」という町長のコメントもありました。
- ☆2022年4月から、町民皆さまにライン登録をしてもらい、防災情報等はラインで配信することになりました。そのための業務委託料として198万円が補正予算に計上されました。スマホを持っていない方についての対応は、貸出等今後の検討です。
- ☆昨年、盤石トンネルから出た要対策土を間違えて黒岩へ搬入し、雨で下層2m近くまで浸み込んだということがわかりました。その後、掘り返してトンネル入り口に遮水シートにくるんで置いているそうですが、その土からはヒ素が基準値の約2倍強が検出されたそうです。工事の現場も発生土置き場も簡単に見に行ける所ではありませんし、ヒ素も見えるものではないので、機構を信じるしかないのですが、このようなことが起きると、信頼が崩れます。
- ☆現在2名いる副町長が、2021年11月から1名となることが決まりました。

## 今年も生涯学習フェスティバル！

(ほかにもいろいろな企画が！詳しくは町広報のチラシで)

**日時：10月9日(土)10時～12時**

**会場：はぴあやくも**

**講師：山上亮氏(整体ボディーワーカー)**

**テーマ：『身体に聞いてみよう！』**

**誰でもできる整体セルフケア**

※病気になったら病院に行きますが、病気になる前の体のチョットした不調や心の不安定など、自分で発見し、お手当出来たらとても良いですよ。そうした基礎を是非、一緒に実践してみませんか？

**日時：11月18日(木)19:00～21:00**

**会場：八雲町公民館**

**講師：加藤俊徳氏**

(加藤フラクティククリニック院長・株式会社 脳の学校 代表取締役)

**テーマ：「脳は一生成長する！」**

**～50歳を超えて若返る脳・ボケる脳～**

※歳を重ねても、自分のことはある程度自分でできる生活が一番ですよ。そうした老後を見据えて、今からしっかりと準備したいですね！



# 3期12年が終了しました！

皆さまの温かなお力添えのおかげで、3期12年の活動を終了することができました。12年前、一度も議会の傍聴もしたこともなく何の知識もない私が町議会議員となり、会派にも入らず今日までやってこられたのは、いつも応援してくださる皆さまのおかげと、心から感謝しております。本当にありがとうございました。

## 1 期目

行政のことは何もわからない状況だったので、各課の課長さんをお願いして同期の議員と勉強からスタート！ザラボヤが大量発生。財政も危機的な状況となり、職員の給与自主削減と共に議会も報酬の自主削減を行いました。議会改革のため、先進地視察はとても勉強になり、そのことが議会報告会や議会広報の「耳をすまして」のコーナーに活かされています。議会基本条例の策定にあたり、議員間討議ができたことが何よりの収穫でした。

## 2 期目

広報広聴常任委員長となり、取材に力を入れると共に、見やすくわかりやすい紙面作りを目指しました。総合病院本館棟建て替えや熊石パークゴルフ場設置に関しては、議会の中でも時間をかけて話し合いました。この期では、くるみ保育園が廃止され、熊石の4つの小学校と2つの中学校が統合されました。そうしたことも含め、文厚委員会では子育てサークルやPTAと意見交換をし、子育て支援について8項目を提言しました。（給食費無料はその成果）

## 3 期目

広報誌の作成に力を入れると同時に、子育てや福祉、教育に力を入れて取り組みました。文厚委員長としては、2つの自治体病院を持つ八雲町が、将来も持続可能であるためにどうあるべきかについて、総合病院のアドバイザーの方と何度か意見交換をさせていただきました。2つの病院が町民から信頼され、働きやすい病院であることが何より大切です。この期では、コロナのため議会報告会がほとんど開催されず、非常に残念です。

## 4 期目へ向けて

コロナという難しい状況もありますが、やはりまちづくりは町民皆さんと協働で行うものだと思います。議会の内容をお伝えし、いろいろな場面で積極的に皆さまの意見を聞きながら、それぞれの役割をしっかりと果し、みんなでより良い八雲町を目指していきます。『身近な議会』『わかりやすい議会』を目指し、今まで以上に広報広聴に努めていきます。これからもご指導をよろしくお願い致します。

事務所は例年通り住初町126に設置しますが、コロナ禍により密を避けるため、事務所開きや出陣式は行いませんので、ご理解くださいますようお願いいたします。

赤井むつみ後援会連絡先 八雲町住初町126

FAX=62-3632 電話=080-5588-2090 (赤井)

赤井自宅 栄町56-12 (栄町3区) ☎ 63-2090

ホームページは「赤井むつみ」で検索してください！

